

資料 4

認知症初期集中支援事業等について -長田区モデル事業-

長田区医師会

会長 久次米 健市



長田区地域と進める認知症 早期発見システム構築事業

【主な取り組み】

1. ご近所みまもりシート 平成21年～
 - ・早期発見の大切さや注意が必要な症状、相談窓口など紹介
 - ・高齢者が利用する喫茶店や惣菜店、関係機関に配布
2. 将来あんしん登録制度 平成21年～
 - ・70歳以上の高齢者が対象。かかりつけ医や治療中の病気、緊急連絡先、どのような生活を送りたいか等の情報を登録
 - ・登録者には、認知症予防研修会の案内や、年1回生活状況確認を行う。

認知症初期集中支援事業（概要）

【目的】

認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で暮らし続けられるように、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置し、早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築する。

【対象者】

40歳以上で、在宅で生活しており、かつ認知症が疑われる人又は認知症の人で以下のいずれかの基準に該当する人とする。

◆医療サービス、介護サービスを受けていない人、または中断している人で以下のいずれかに該当する人

- (ア) 認知症疾患の臨床診断を受けていない人
- (イ) 継続的な医療サービスを受けていない人
- (ウ) 適切な介護保険サービスに結び付いていない人
- (エ) 診断されたが介護サービスが中断している人

◆医療サービス、介護サービスを受けているが認知症の行動・心理症状が顕著なため、対応に苦慮している

【事業概要】

対象者に、認知症初期集中支援チームが、心身状況や生活環境、本人や家族の希望に応じた支援を、おおむね6か月間実施する。

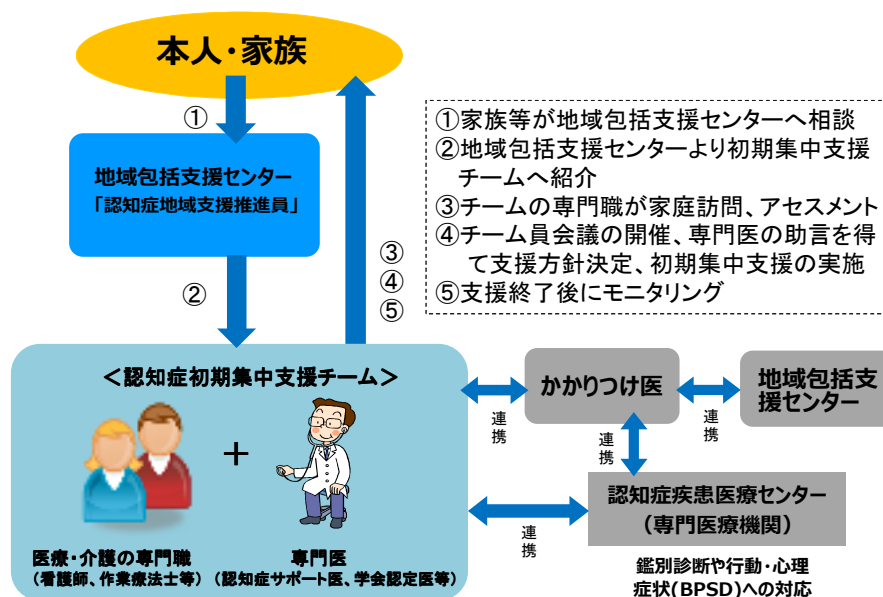
【認知症初期集中支援チーム】



医療と介護の専門職
(保健師、看護師、作業療法士、
社会福祉士、介護福祉士等)

配置区：長田区(H25.9～)、中央区(H27.9～)
東灘区(H27.12～) (H28年度現在)

認知症初期集中支援事業（流れ）



モデル事業実績 1

対象者（合計 137名）

項目	件数	
性別	女性	93(68%)
年齢	85歳以上	45(33%)
世帯	独居	60(44%)
把握ルート	家族	70(51%)
困難事例	該当しない	102(74%)

モデル事業実績 2

		件数	割合(%)
介入前	鑑別診断なし	111	81.0
	介護サービス利用なし	104	75.9
	通院治療なし	57	41.6

モデル事業実績3

		件数	割合(%)
介入後	鑑別診断	59	43.1
	介護サービス導入 (インフォーマル含)	84	61.3
	継続通院	80	58.4

モデル事業実績4

		件数	割合(%)
相談対応件数		137	100
介入結果	在宅継続	119	86.9
	入所	4	2.9
	入院	6	4.4
	その他	8	5.8

課題

- 地域のなかでどのように初期の認知症(疑いも含む)の人を把握していくか
- 関係機関との連携
- 認知症に詳しい人材の育成や確保
- 初期の認知症の人に対して社会資源が少ない
- 周知について
- 対象区を拡大する場合の人材確保や関係機関の協力

まとめ

- ・本人ができることを支える(家族への支援)
- ・アセスメントの重要性
- ・人材育成
- ・初期対応から医療・介護への流れの確立
- ・必要な社会資源の整理